

◆主なマーケットの動き

株式	債券	為替
<p>日本株式（2/12） 米中通商協議の進展期待から110円台前半まで円安が進んだことが好感され、日経平均株価は自動車など輸出関連株を中心に買いが先行しました。その後、米政府機関の再閉鎖が回避できるとの見方が広がったことで、短期志向の投資家が株価指数先物に目先の戻りを期待した買いを入れたことも追い風となり、前週末の下落幅（418円）を1日で取り戻す大幅反発となりました。</p> <p>グローバル株式（現地2/8-11） 独景気の減速感や欧州委員会による経済成長率見通しの大幅下方修正など、ユーロ圏景気減速が鮮明になったことに加えて、3/1交渉期限に向けた米中通商協議受結への期待が後退する中、ハイテク関連銘柄中心に売りが広がり、8日のアジア株式市場は総じて下落しました。前日に続いて、ユーロ圏の景気減速や米中通商協議に対する警戒を背景として、自動車関連銘柄を中心に売りが広がり、8日の欧州株式市場は総じて下落しました。ユーロ圏景気の減速が鮮明となる中、トランプ米大統領が米中通商協議の期限3/1までの首脳会談開催の可能性を否定したことで、貿易戦争長期化への警戒が強まり、8日のダウ工業株30種平均は続落しましたが、根強い米利上げ休止への警戒から主力ハイテク銘柄に買いが入ったナスダック総合株価指数は反発しました。 北京で始まった米中通商協議を巡る次官級会合への期待や春節（旧正月）期間中の小売売上高が好調だったことを背景に、春節の大型連休明けの上海株式市場が大幅上昇するなど、11日のアジア株式市場は総じて上昇しました。米中通商協議進展への期待に加えて、イタリアの不良債権が大幅に減少したことを受けてイタリア株式市場が大幅反発するなど、11日の欧州株式市場は総じて上昇しました。米中通商協議進展への期待から11日のダウ工業株30種平均は買いが先行しましたが、通商協議への不透明感や米政府機関の再閉鎖への警戒から徐々に売り優勢となり、ダウ工業株30種平均は続落となりました。</p>	<p>先進国債券（現地2/8-11） 引き続きユーロ圏の景気減速や米中通商協議に対する警戒から、投資家のリスク回避姿勢が強まる中、独10年物国債利回りが0.08%まで低下するなど、8日の欧州中核国債利回りは総じて低下（債券価格は上昇）しました。ユーロ圏景気の減速が鮮明となる中、トランプ米大統領が首脳会談開催の可能性を否定するなど、貿易戦争長期化への警戒から安全資産とされる米国債を買う動きが強まり、10年物国債利回りが2.63%まで低下するなど、8日の米国債券利回りは低下しました。 不良債権の大幅減少を受けてイタリア債券利回りが大幅低下した一方で、米中通商協議進展への期待もあり、独10年物国債利回りが0.12%まで上昇するなど、11日の欧州中核国債利回りは総じて上昇しました。米政府機関の再閉鎖の可能性が高まっている一方で、北京で始まった米中通商協議を巡る次官級会合への期待を背景に、10年物国債利回りが2.65%まで上昇するなど、11日の米国債券利回りは上昇しました。</p>	<p>ドル円為替レート（現地2/8-11） 109円台後半で始まった東京時間は、ユーロ圏景気や米中通商協議への警戒から日経平均株価が大幅安となるなど、投資家のリスク回避姿勢が強まる中、109円台後半でのみみ合いとなりました。8日の海外では、トランプ米大統領が米中通商協議の期限3/1までの首脳会談開催の可能性を否定したことで、貿易戦争長期化への警戒が強まりましたが、109円台後半でのみみ合いに終始しました。 11日の海外では、北京で始まった米中通商協議を巡る次官級会合への期待や、ユーロ圏の景気減速懸念からユーロ売り/米ドル買いが続いていることがドル円為替レートにも波及し、節目とされる110円台に乗せたことで円売りが加速したこともあり、110円台半ばまで円安が進みました。</p>

◆基準価額の動き

※以下の表中の「組入れファンドの動き」のうち、「米ドルベース」とは、当該組入れファンドが米ドル建のものです。「為替ヘッジなし」は、当該組入れファンドが円建のものです、為替ヘッジは行っていません。「為替ヘッジ」は、当該組入れファンドが円建のものです、為替変動の影響を抑えるために為替ヘッジを行っています。一般に、為替ヘッジを行った場合には、ヘッジ・コスト（ヘッジ対象通貨の金利と円金利の差）がかかります。

ぜんぞうシリーズ

ファンドの動き	組入れファンドの動きと組入比率（目標）		
	先進国債券 （為替ヘッジ）	先進国株式 （為替ヘッジなし） ^{*1}	新興国株式 （為替ヘッジなし） ^{*1}
	↑ 小幅上昇	↑ 上昇	↓ 下落
ぜんぞう 1502、1702、1704、1709、1802 ^{*2}	↑ 上昇	40%	50%
ぜんぞう 1804	↑ 上昇	50%	42%
ぜんぞう 1807	↑ 小幅上昇	65%	29%
ぜんぞう 1810	↑ 小幅上昇	80%	17%
ぜんぞう 1901	↑ 小幅上昇	95%	4%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

※"- "は組入れが無いことを表します。

*2:ファンドによって動きが異なる場合があります。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑ 円安
------------------	------

*3:安定的な債券運用に切り替わっています。

◆基準価額とグラフはこちら

[1408](#) [1502](#) [1505](#) [1508](#) [1602](#) [1605](#) [1702](#) [1704](#)
[1709](#) [1802](#) [1804](#) [1807](#) [1810](#) [1901](#)

◆コメント

- ・先進国債券市場は小幅下落。先進国株式市場は小幅下落、新興国株式市場は下落。（現地通貨ベース）
- ・「先進国債券」は小幅上昇。ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」は上昇、「新興国株式」は下落。
- ・株式比率の高い「ぜんぞう1502、1702、1704、1709、1802」の基準価額は前日比上昇。
- ・漸増期間中の「ぜんぞう1804」の基準価額は前日比上昇、「ぜんぞう1807」「ぜんぞう1810」「ぜんぞう1901」の基準価額は前日比小幅上昇。
- ・なお、「ぜんぞう1508、1602」は2018年7月5日に、「ぜんぞう1505、1605」は2018年11月29日に信託終了（繰上償還）、「ぜんぞう1408」は2018年12月10日に信託終了（満期償還）致しました。

しずくシリーズ

組入れファンドの動き			ファンドの動きと基本資産配分		
			海のしずく	森のしずく	星のしずく
			↓ 小幅下落	↑ 小幅上昇	↑ 小幅上昇
先進国中短期投資適格債券	為替ヘッジ	↑ 小幅上昇	75%	50%	25%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）	為替ヘッジ	変わらず	25%	25%	8%
先進国好配当株式	為替ヘッジ	↑ 上昇		25%	25%
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑ 上昇			25%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↓ 下落			10%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジなし）	為替ヘッジなし*1	↓ 小幅下落			7%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑ 円安
------------------	------

◆基準価額とグラフはこちら [海のしずく](#) [森のしずく](#) [星のしずく](#)

◆コメント

海のしずく 「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」は変わらず、組入れ比率の高い「先進国中短期投資適格債券」はほぼ変わらずとなり、海のしずくの基準価額は前日比小幅下落。

森のしずく 「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が変わらず、「先進国中短期投資適格債券」は小幅上昇となり、「先進国好配当株式」も上昇となったことから、森のしずくの基準価額は前日比小幅上昇。

星のしずく 為替の動きを加味した「新興国株式」が下落となったものの、「先進国株式」が上昇となったことから、星のしずくの基準価額は前日比小幅上昇。

くらだし

組入れファンドの動き			くらだし
配当成長株式	為替ヘッジなし*2	↑ 上昇	↑ 上昇

*2:「為替ヘッジなし」は、現地の株式等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。
なお、本ファンドは株式と通貨のカバードコール戦略を採用しています。

米ドル/円レート（ロンドン）	↑ 円安
----------------	------

◆基準価額とグラフはこちら [くらだし](#)

◆コメント

- ・配当貴族指数が小幅下落する中、本ファンドの配当成長株式ポートフォリオは上昇。
- ・ドル円為替レートは円安となり、組入れファンドが上昇したことから、くらだしの基準価額は前日比上昇。
- ・株式カバードコール戦略、通貨カバードコール戦略は共にマイナス寄与。

* 配当貴族指数とは、S&P500配当貴族指数とS&Pグローバル配当貴族指数を1：1の割合で合成したものです。

しゅういつ

ファンドの動き	しゅういつ
日本株式集中投資戦略（マザーファンド）	↑ 大幅上昇

◆基準価額とグラフはこちら [しゅういつ](#)

◆コメント

- ・参考指標であるJPX日経インデックス400が大幅上昇する中、しゅういつの基準価額も前日比大幅上昇。
- ・個別銘柄では、日本電産、塩野義製薬などがプラス寄与、ソニー、武田薬品工業などがマイナス寄与。

たんはい

組入れファンドの動き			たんはい有	たんはい無
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジ	変わらず	↓小幅下落	
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジなし*1	↓小幅下落		↓小幅下落

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ロンドン）	↑小幅円高
----------------	-------

◆基準価額とグラフはこちら [たんはい有](#) [たんはい無](#)

◆コメント

- ・米国株式市場がまちまちとなる中、米国ハイ・イールド債券市場は小幅上昇となったものの、たんはい有の基準価額は前日比小幅下落。
- ・ドル円為替レートは小幅円高となり、たんはい無の基準価額は前日比小幅下落。

てつさん

組入れファンドの動き			てつさん
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	80%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↓下落	20%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [てつさん](#)

◆コメント

- ・先進国株式市場は小幅下落、新興国株式市場は下落。（現地通貨ベース）
- ・ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「新興国株式」は下落となったものの、「先進国株式」が上昇となったことから、てつさんの基準価額は前日比上昇。

あおぞら投信株式会社からのお知らせ

【ご購入に際しての留意事項】

◆投資信託に係るリスクについて

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。

なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」を必ずご覧ください。

<投資信託に係る費用>

◆投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	上限3.78%（税抜3.50%）
換金時手数料	上限1.08%（税抜1.00%）
信託財産留保額	ありません。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	純資産総額に対して上限年率1.8628%（税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

※上記当該手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

- ・上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・費用の料率につきましては、あおぞら投信が運用するすべての投資信託のうち、投資家の皆さまにご負担いただく、それぞれの費用における最大の料率を記載しております。
- ・投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。
- ・投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。
- ・投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- ・コメントは作成時点における見解であり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

あおぞら投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2771号
加入協会 一般社団法人 投資信託協会